

経年変化にみる帯広農業高等学校農業経営者育成寮の教育的意味

平林拓也¹・平舘善明²

(受付 : 2013 年 4 月 30 日, 受理 : 2013 年 7 月 10 日)

An educational meaning of the dormitory on Hokkaido Obihiro Agricultural High School,
focused on change from 10th graders to 12th graders and graduates

Takuya HIRABAYASHI¹, Yoshiaki HIRADATE²

摘 要

本稿では、高等学校の学生寮の代表的事例である農業経営者育成高等学校のうち、北海道帯広農業高等学校の農業経営者育成寮に焦点をあて、寮生活が人間形成や将来に及ぼす影響を解明することを試みた。1年生、3年生、卒業生にアンケート調査を行った結果、第一に、①寮生活が将来に役立つと思う生徒、②入寮して良かったと思う生徒、③寮生活のおかげで学校生活がよくなったと思う生徒の割合が有意に高まるなど、1年生から3年生へと時間の経過に伴って、寮生活の教育的意味への生徒の自覚が強まることが判明した。協調性をはじめ、生活リズム、礼儀やルール、人間関係などの形成・体得への実感が自覚の根拠として存在した。第二に、農業経営者育成寮との名称ではあるが、実家が農家である生徒や農業経営者を目指す生徒だけでなく、それ以外の生徒にも寮生活をもたらす教育的意味がある。第三に、厳しい指導の意味を理解している生徒と寮生活のもたらす教育効果に高い関係性があることが明らかになった。

キーワード : 農業高校、学生寮、寄宿舎、農業経営者育成高等学校、アンケート調査

I. 研究の目的と背景

広農業高等学校(以下、帯広農業高校と略記。)の農業経営者育成寮に焦点をあてる。

(1) 研究の対象

本研究は、高等学校の教育実践に関する研究の一環として、高等学校の学生寮(寄宿舎)、とりわけその代表的事例である農業経営者育成高等学校のうち、北海道帯

広農業高等学校(以下、帯広農業高校と略記。)の農業経営者育成寮に焦点をあてる。学校教育法によれば、高等学校は、「中学校における教育の基礎の上に」、「普通教育及び専門教育」を併せ施すことを目的とし、上構型学校体系における「国民共通の教養を教育する完成教育機関」¹としての役割を基調

¹工学院大学教職特別課程学生(2013年3月帯広畜産大学畜産学部卒業)

²帯広畜産大学人間科学研究部門 〒080-8555 帯広市稲田町西2-11

¹Special Curriculum for Teaching Certificate in Undergraduate and Graduate School, Kogakuin University

²Department of Human Sciences, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Obihiro, Hokkaido, 080-8555, Japan

としている。社会状況として上級学校進学準備教育としての形態を含みながらも、生徒が「変化の激しい社会の中で自立し、生き抜いていくために」、「高等学校とは何か」および「高校生として必要最低限な資質・能力の明確化」が今日においても審議されていることが²、戦後一貫して高校教育が「完成教育」をその基調としていることを示唆している。

この点に関連して、より具体的には、現行の学校教育法第51条において、「豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、社会の形成者として必要な資質を養う」、「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させる」、「個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養う」ことが高校教育の目標とされている。すなわち、発展可能な社会の形成者としての資質を養うべく、教養・身体とともに、豊かな人間性を養うことが目標とされている。

そこで本研究で着目したのが学生寮である。高等学校の学生寮は、単に通学の便宜や寝泊まりする所というだけでなく、当該校の教師が泊まり込みで指導し、生徒の人間の成長を促すねらいを含む。先の教養・身体・人間性を養うといった観点からみると、高校教育において、歴史的に学生寮の果たしてきた役割は看過できない。

今日でも、高校に寮が設置されているところは公立・私立を合わせるとかなりの数があり、寮教育の一つの代表事例として、農業経営者育成高等学校に設置された寮があげられる³。

設置の経緯は、1961年の「農業基本法」の制定を契機として、1964年度から農業自営者の養成・確保のために

「自営者養成農業高等学校拡充施設補助金」が支出され、「自営者養成農業高等学校」として、1974年までに31校がその対象とされた⁴。1998年から「農業経営者育成高等学校」と名称を変え、2003年の時点で25都道府県38校の農業高校が指定されている⁵。

ちなみに、「自営者養成農業高等学校拡充施設補助金」は、1964年4月10日付の中央教育審議会答申「高等学校における農業自営者の養成および確保のための農業教育の改善方策」を受けてのものであった。この答申の「改善すべき事項」の中で、寄宿舎が重く位置づけられている。すなわち、寄宿舎について、「農業および農村生活の特性にかんがみ、寄宿舎生活を通じて、農業自営者としての心構えを育成し、自立、協働、責任を重んじる態度を養うとともに、生活指導の強化をはかり、学習と生活との関連を緊密にし、農業教育の効果をいっそう高める必要がある。／このため、すべての男子および女子生徒に対し、少なくとも1〜2か年程度の宿泊を伴う教育を行なうこととし、それに必要な寄宿舎を設置しなければならない。」と述べられている。

『日本近代教育百年史』によれば、この答申は「卒業生に就農の義務的な枠をはめた高校の設置」と「農業従事者たらんとする者は全寮の精神的な指導を受ける必要があるという一種の精神主義的農業教育の流れの再登場」を意味したとされる。

当時、文部省はこの答申内容をほぼ全面的に取り入れた「自営者養成農業高等学校拡充整備実施要綱」をつくり、1964年度を第1年次として「自営者養成農業高等学校拡充整備補助金」（64年度約2億2千万円、65年度約3億3千万円）を産業教育振興法に基づく国の補助事項

¹佐々木享『高校教育論』大月書店、1976年、p. 15。

²中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会報告「初等中等教育分科会高等学校教育部会の審議の経過について〜高等教育の質保証に向けた学習状況の評価等に関する考え方」（2013年1月）

³なお、農業経営者育成高等学校の他に、学生寮（寄宿舎）を設置している高校として、特別支援学校の高等部や中等教育学校なども知られる。ただし、これらは生徒の通学上の困難解消を第一義とするものも多い。

⁴文部科学省「第二編第二章第六節 二 高等学校職業教育学科の多様化」『学制百年史』1972年、pp. 950-952。

⁵阿部英之助「高等学校再編から見る農業高校の変容と今後」『東洋大学大学院紀要』第40集、2003年、pp. 15-26。

として新設し、本格的に新しい農業高校の建設に取り組み始めた⁶⁷。

つまり、「自営者養成農業高等学校」は、農業自営者の養成・確保のために、「自営者養成農業高等学校拡充施設補助金」を支出基盤に、就農者の囲い込み、さらに彼らへの精神主義的な側面からの教育をも意図に含みつつ、寄宿舎の整備と寄宿舎教育の充実・強化を推進するという1つの特徴をもって登場したといえる。帯広農業高校もその一つであり、農業経営者育成寮（以下、育成寮と略記。）という名称の寮がある⁸。

(2) 先行研究

学生寮（寄宿舎）についての先行研究は、歴史的にみれば、まず全寮制の学校である「寄宿学校」があげられる。尾形は「寄宿学校」の性格と歴史について、端的に以下の3点にまとめている⁹。

すなわち、第1に、「寄宿学校」は教師の指導監督の下での集団的共同生活を通して、全人的な人間形成を意図し、「同年輩の児童生徒の自治的共同生活による相互の交際と切磋とが、社会的態度の育成、人間形成に最も効果的であるという教育観」に立脚している点。

第2に、古くはイギリスのパブリック・スクールが「寄宿学校」としてあげられ、当初は単に通学のための便宜的な措置に過ぎず、寄宿舎に入る生徒も少数であったが、やがてラグビー校の名校長として有名なトーマス・アーノルド(Thomas Arnold, 校長在任期間は1828-42年)

の創案により、寮生活を根幹としたその教育的効果が広く認識され、パブリック・スクールの顕著な特徴をなし、現在に至っている点。

第3に、日本の近代学校制度上では、1886年のいわゆる第1次中学校令で全国に5校設けられた高等中学校の後身である旧制高等学校と1886年の師範学校令以後の師範学校とが全寮制度として著名であり、旧制高等学校の寮制はイギリスのパブリック・スクールを範型としたものであった点。

さらに尾形は、戦後日本の教育が「集団生活を通して社会的訓練を行い、社会的態度を育成するという視点が失われて」いることを鑑み、「寮生活を通じて不断に心身両面の基礎的訓練を行い、全人教育を目指すところのパブリック・スクールの教育実践は、受験体制のもたらした知育偏重、偏差値至上主義の支配する日本の教育のあり方に厳しい反省を迫るものである」と指摘している。

他方、戦後日本の高等学校の学生寮については、1960年代後半から研究が散見される。そこでは、全寮制高校の取組みの紹介や発足経緯、全寮制高校の意義、寮生活の成果等について言及されている。

例えば、阪本は、1974年の集団脱寮事件を契機にして行なわれた鳥羽商船高等専門学校での学寮指導の改革の概要を述べ、今後の課題として「全寮制が学生の人間形成に及ぼす影響を明らかにし、寮制度の再検討、学寮の管理運営や指導の改善のための基礎資料を得たい」¹⁰と述べた。しかし、それ以降、阪本を含め、人

⁶ 浜田陽太郎「第四編第七章第二節 学校制度の再編成と教育内容」『日本近代教育百年史 10 産業教育 (2)』(国立教育研究所編、1973年) pp. 815-829。

⁷ なお事実、「自営者養成農業高等学校拡充整備実施要綱」の「寄宿舎教育の充実強化と寄宿舎の整備」の項目には、「寄宿舎の施設・設備は、2個学年以上の生徒が同時に宿泊できる」、「寄宿舎の入舎期間は、すべての生徒が農業実習のうち重要な指導内容について、宿泊を伴う実習を行なうことができるよう、2ヵ年程度以上とする」などの「指針」が示された。文部省「〈資料〉自営者養成農業高等学校拡充整備実施要領」『文部時報 7月号』(第1055号、1965年、pp. 66-73)を参照。

⁸ 帯広農業高校には、育成寮のほかに、主に2年生以降、通学の便に配慮し、一部の希望者が入寮できる青雲寮と遠隔女子寮もある。

⁹ 尾形利雄「寄宿学校」『新教育学大辞典』第2巻、第一法規、1990年、pp. 106-107。

間形成への影響を解明にした研究は、管見の限り、皆無である。

また、宮崎県立高鍋農業高等学校の寮に関して述べた栗原の論稿では、寮の設置経緯に加えて、教師や生徒への聞き取りをもとに、生徒主体での寮の自治等の特徴が述べられている。そこでは、寮で生活しているからこそできる「実習が、将来役に立つと思う」といった生徒の発言が紹介されている¹¹。ここから、寮生活が高校生の将来にとって教育的意味を持つことが示唆される。

以上のように、本研究に多少の示唆を与える論稿はいくつか存在するものの、大半の研究は1960年代から1980年代のものであり、最新の研究でさえ、先に取り上げた2001年の栗原の論稿であって、近年では寮についての研究はほとんどなされていない。

(3) 研究の目的

本研究ではこうした先行研究の成果と課題をもとに、寮生活の1つの代表事例である農業経営者育成高等学校に設置された学生寮、とりわけ帯広農業高校のそれに着目し、これまで明らかにされてこなかった寮生活の人間形成に及ぼす影響や、高校生の将来に及ぼす影響を明らかにすることを試みる。

II. 研究の方法

本研究では、次ページに載せた調査用紙「農業経営者育成寮についての調査」を用いて¹²、2012年に帯広農業高校に在籍する1年生と3年生、および卒業生を対象として、アンケート調査を実施した。

調査用紙の作成にあたって、アンケート項目は、第1に、入寮前・入寮後・将来の3つの視点から、各々の対象学年内での時間経過により変化がみられるか否か、変化がみられる場合にはどのように変化するか、第2に、項目ごとに、1年生・3年生・卒業生という時間経過に伴ってどのような変化がみられるかを明らかにすることを意図して、14問を設定した。

さらに、アンケートの妥当性を検証するために、2年生20名に予備調査を実施し、文言の修正を施した。

アンケート実施時期は、1年生は入学3ヶ月後、3年生は卒業3ヶ月前、卒業生は10月である。

回収率に関しては、2012年度に帯広農業高校に在籍する生徒のうち、農業経営者育成寮で生活する1年生105名、3年生113名、さらに1979年度と1984年度の卒業生60名に調査用紙を配布したところ、1年生と3年生からは全員、卒業生からは29の回答を得られた。

分析方法は、これらの回収した調査用紙の回答を、学年ごとに全体傾向および、男女別・学科別・実家別・将来別の比較分析を行なった¹³。さらに、それらの分析結果に基づき、設問ごとに学年間の比較分析をおこなうとともに、設問間のクロス集計をおこなった。比較分析にあたっては、適宜、 χ^2 検定をおこなった。

なお、卒業生の回答数が少ないのは、個人情報保護の点から配布の範囲が限定されたためである¹⁴。また、卒業生の在籍時と現在では、入寮の学年や舎室の人数などの寮制度が異なる点もある。したがって、これらの点を考慮し、卒業生の分析結果については、参考として扱うこととした。

¹⁰ 阪本幸男「全寮制における学寮指導の改善策について」『厚生補導』131巻、1977年、pp.55-61。

¹¹ 栗原和大「全寮制で農業担う若い力養成」『内外教育』5245巻、2001年、pp.10-12。

¹² 実際に配布したアンケート調査用紙はB4版である。

¹³ 本稿では紙幅の関係上、これらの比較分析の詳細な結果については割愛する。

¹⁴ 個人情報保護の観点から、同窓会名簿に掲載されたリストを直接に用いて配布することは断念した。そこで、本学非常勤講師で元帯広農業高校校長の水戸部洋二氏に協力を仰いだ。水戸部氏がクラス担任時の教え子に依頼文書を送付し、調査への回答の承諾を得られた卒業生に限ってアンケートを送付・回収した。

農業経営者育成策についての調査

帯広畜産大学 農業経済学ユニット 平林拓也

本アンケート調査は、寮生活が日常や将来にもたらす効果・影響を明らかにするために
行うものです。調査結果は学術論文の作成に使用し、それ以外の目的では使用しません。

Q1. 入寮前から育成寮に入りたいと思っていましたか。

- ①とてもそう思う ②思っていた ③普通 ④あまり思っていない ⑤まったく思っていない

Q2. 育成寮での指導は厳しいと思いますか。

- ①とてもそう思う ②そう思う ③普通 ④あまり思わない ⑤まったく思わない

Q3. どのような特別指導を受けたことがありますか。具体的にお願いします。

(例:ゲームの持ち込み、ダミー携帯、頭髮の着色など)

Q4. なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか。

- ①はい ②いいえ

「はい」と答えた方はその内容をお願いします。

Q5. 入寮して間もないころは、育成寮での生活をどのように感じていましたか。

- ①とても楽しかった ②楽しかった ③普通 ④つらかった ⑤とてもつらかった

Q6. 育成寮での生活の中で、楽しかったことは何ですか。

Q7. 育成寮での生活の中で、つらかったことは何ですか。

Q8. 育成寮にいたおかげで、学校生活が良くなった(役立った)ことはありませんか。

- ①はい ②いいえ

「はい」と答えた方はその内容をお願いします。

Q9. 育成寮に入ったことは将来的に役に立つと思いますか。

- ①はい ②いいえ ③どちらでもない

「はい」と答えた方で、具体的に人はその内容をお願いします。

Q10. 育成寮に入寮してよかったですか。

- ①とてもそう思う ②そう思う ③普通 ④あまり思わない ⑤まったく思わない

Q11. 2年生以降も同じ制度で育成寮にいたことができるとしたら、入寮しますか。

- ①とてもそう思う ②そう思う ③普通 ④あまり思わない ⑤まったく思わない

Q12. 直してほしい点がありますか。具体的にお願いします。

Q13. あなたが育成寮での生活を通して学んだことはなんですか。以下の中から選んでください。(複数可)

- ①生産管理技術 ②経営能力 ③自主・自立心 ④礼儀作法 ⑤自学自習 ⑥協調性
⑦意見発表力 ⑧計画性 ⑨指導力 ⑩責任感 ⑪人間性 ⑫健康管理
⑬自己啓発(意味:自分をより高い段階へと成長させようとする)
⑭その他()

Q14. あなた自身について教えてください。

性別	①男 ②女
学年	①1年生 ②2年生 ③3年生 ④卒業生(年度卒)
学科	①農業科学科 ②酪農科学科 ③食品科学科 ④農業土木工学科 ⑤森林科学科
実家は農業を営んでいますか。	①はい ②いいえ
将来、農業経営者を目指していますか。	①はい ②いいえ ③未定

ご協力ありがとうございました。

Ⅲ. 帯広農業高校農業経営者育成寮の概要

分析結果を論じる前提として、ここでは、毎年、帯広農業高校で生徒および保護者向けに編纂・発行されている冊子『農業経営者育成寮の教育と運営』に記された内容をもとに、育成寮の概要について述べる。

(1) 沿革

帯広農業高校は、1920年開校の十勝農業学校を前身とし、1957年に現在の校名に改称。1965年に「自営者養成農業高等学校」の指定を受け¹⁵、同年8月に宿泊実習寮寄宿舎建設工事に着工した。総工費は約5,600万円であった。翌年5月に開寮。定員240名（男子160名、女子80名）で、将来的に自営学科の生徒が年4か月間、宿泊実習することを目標とし、自営学科（農業科・畜産科）の1年生全員のほか、一般寄宿舎の自営学科2・3年生全員を入寮させ、寮生160名でスタートした。1967年には自営学科（農業科・酪農科）の1年生全員のほか、2年生を6期に分けて2か月ずつ入寮させ、1968年から、農業科・酪農科の1年生だけを1か年入寮させるようになった¹⁶。

現在、帯広農業高校は、全日制では農業科学科・酪農科学科・食品科学科・農業土木工学科・森林科学科の5学科があり、農業科学科・酪農科学科・食品科学科はフード系学科と位置づけられている。この3学科に入学した生徒は1年生の時に寮生活を義務づけられている¹⁷。

(2) 基本方針

育成寮教育の目的は、将来の日本農業を担う「近代的農業人育成の場」で、「秩序ある協同生活を通じて、豊かな人間性を育成すると共に、自立・協同・友愛の精神を養い農業経営者として確固たる信念と、たくましい実践力を身につけた農業人の育成をはかる」とされている。

次に、「指導目標」は、次の5点である。

①民主的な協同生活を通じて、自主自立の精神と協調性、責任感を養う。②規律のある日課、学習を通じて心身の健全なる成長と基礎的教養の向上をはかる。③寮生活と農業実習との関連により、基礎的生産管理技術および優れた経営能力を養う。④知・徳・体の調和のとれた情操豊かな人間性を養う。⑤寮生活の学習を通して勤労を愛好し、科学的で創造力のある生活態度と、すすんで農村生活を改善しようとするたくましい実践力を養う。

¹⁵『農業経営者育成寮の教育と運営』には、「北海道教育庁独自の自営者農業高校の指定」と記されている。この「北海道教育庁独自」の指定の内容については不明である。なお、横井敏郎「高校教育における市町村連合の意義—北海道市町村立農業高等学校振興対策協議会の活動と軌跡—」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』（第81号、2000年、pp.1-58）には、次のように記されていることから、時期的にみて、北海道教育庁から1962～1964年の間に「近代化指定校」の指定を、1965年に文部省から自営者農業高校の指定を受けたと推測される。

「道教委は、1961年の中教審建議『農業の近代化に即応する高等学校農業教育の改善方策』、文部省『高等学校農業教育近代化実施要綱』を受けて、1962～1964年に10校の道立全日制農業高校を『近代化指定校』（パイロットスクール）とした。次いで1964年の中教審『高等学校における農業自営者の養成および確保のために』を受けた文部省『自営者養成農業高等学校拡充整備実施要綱』によって、1965～68年には4校の道立全日制農業高校が大型自営者養成農業高校（B型）として指定を受けた。これによって道立全日制農業高校は農場、寄宿舎を始め、施設設備が拡充され、卒業生の就農率も高まる。」（p.9）

¹⁶北海道帯広農業高等学校「第一章 沿革」『平成24年度農業経営者育成寮の教育と運営』p.2。

なお、関係者の話では、全学年を入寮させる縦割り制度から1年生のみを入寮させる横割り制度に変更したのは、上級生が下級生に作業を任せきりにする事例や、上級生による下級生へのいじめの事例などがあったためとのこと。

¹⁷帯広農業高等学校農業経営者育成寮HP（2013年4月30日現在）

<http://www.obino.hokkaido-c.ed.jp/gakkouannai/2006CD/web-data/Diagrams/ryou/index.html>

また、「指導の重点事項」は、次の9点である。

①自主・自律心の涵養、②しつけ教育の徹底、③自学自習の徹底、④自主活動の活発化、⑤研修の強化、⑥発表力と協調性の育成、⑦望ましい人間関係の確立、⑧健康管理や安全教育を徹底し防火に対する意識高揚に努める。⑨施設設備の充実と環境の整備¹⁸

ちなみに、本研究のアンケート項目のQ13は、この基本方針の中にみられる文言をもとに、選択肢を作成した。

(3) 入寮時期

入寮時期は、農業科学科・酪農科学科は1年生の間の1年間、食品科学科は1年生の間の4か月である。関係者からの聞き取りによれば、食品科学科は女子が多い学

科であり、全員が入寮するには女子の舎室が充分ではないため、4か月で半数ずつ入寮するとのことである。

(4) 特別指導

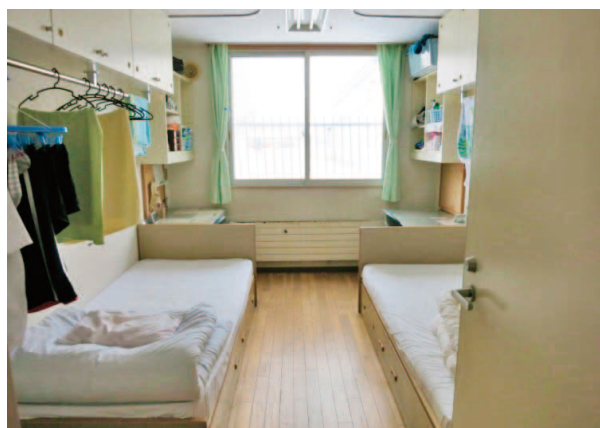
表1は特別指導の詳細である。高校生への指導で一般的にみられる染髪、脱色、ピアス等の頭髪・服装の指導から、寮の自室の管理についての指導まで細かく決められている。「舎室関係」項目には具体的内容は記されていないが、実際には例えば、自室に置いておけるペットボトルの本数などが定められている（「③ゴミ処理なし」に該当）。このように一般的なことから、比較的些細なことまで、指導が行われている。なお、表1の指導手順に記した「罰直」の具体的な内容はトイレ掃除などである。

表1 特別指導対象事項

<p>1. 舎室関係 ①床掃除不良 ②机上乱雑 ③ゴミ処理なし ④舎室整頓不良 ⑤床整理不良 ⑥ベッド整頓不良 ⑦暖房バルブ閉め忘れ ⑧窓の施錠</p> <p>2. 学習時間不良 ①他室訪問 ②マンガ ③音楽プレイヤー(携帯端末)等 ④お菓子</p> <p>3. 消灯後不良 ①他室訪問 ②廊下で騒ぐ等</p> <p>4. 不要物持ち込み ①インスタントラーメン ②ゲーム(コンセント電源) ③テレビ ④花札・麻雀 ⑤懐中電灯 ⑥その他高価な物</p> <p>5. 洗濯機の洗濯物放置 ①一晩以上 ②再三の連絡で片付けなかった場合</p> <p>6. 忘れ物</p> <p>7. 帰省・外泊 ①職員室名札 ②舎室名札返し忘れ ③マグネット</p> <p>8. 校外外出 ①外出簿記入忘れ ②門限遅刻(連絡なし)</p> <p>9. 生活当番不良 ①サボリ ②清掃不良 ③変更届出不履行</p> <p>10. 時間外実習 ①サボリ ②寝坊 ③遅刻 ④清掃不良 ⑤変更届出不履行</p> <p>11. 頭髪服装指導 ①頭髪人工的ウェーブ ②着色 ③脱色 ④ピアス ⑤指輪等装飾品</p> <p>12. 携帯電話の規定違反 ①ダミー携帯 ②使用場所違反</p> <p>13. その他 ①寮関係の特別指導を受けた人 ②寮則違反者 ③時間を守れなかった人(寝坊点呼遅れ等)</p> <p>※指導手順 ・1～2回目:口頭注意 3回目:反省文 4回目:罰直、反省文2題 5回目以降は指導係と舎監長で検討 ・下線事項は、直ちに罰直(上記4回目と同様)となる。</p>

¹⁸前掲『平成24年度農業経営者育成寮の教育と運営』p.10。

下の写真は、午前11時頃に舎室を撮影したものである。生徒たちは学校で授業を受けている時間である。机の上には写真立て以外は何もなく、ベッドにはシーツがしわ1つなく敷かれているのがわかる。もし、机の上に余計な物が置かれていたり、シーツにしわが寄っていたりすると、表1の「舎室関係」項目の「②机上乱雑」や「⑥ベッド整頓不良」に該当し、指導の対象になる。



(5) 日課

表2は、育成寮生の日課表である。1日のスケジュールが細かく決められている。起床時間は、6時20分(夏季)で、当番実習が当たっている場合は遅くとも6時には起床する。朝食の前に清掃を行う。入浴時間や自由時間、学習時間も決められている。例えば、入浴の時間は、入浴をするグループが決められており、15分ずつ順番に入っていく。また、学習時間が約1時間設定されており、この時間帯は、生徒が自室で自主学習を行う。学習時間

は、教師が見回って様子を確かめられるように、自室のドアを開けたままにしておくことになっている。携帯電話は、学習時間の前から翌朝の清掃後まで、舎監に預けることになっている。また、週番があり、食事の時間や入浴の時間の開始を放送で知らせるなど、ほかの生徒たちに指示をする。消灯は22時15分である。

このように、育成寮では、普通科の高校生からみれば、かなり厳しいと感じられる生活を送っている。

表2 日課表

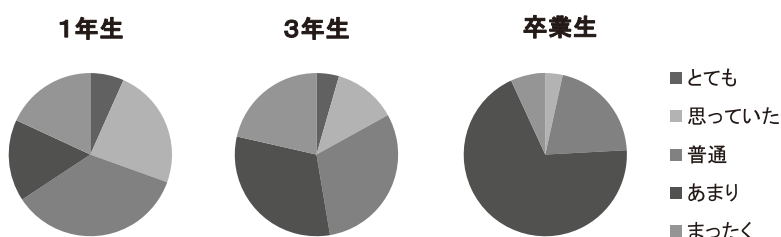
	4月～10月 (11月～3月)
・当番実習	6:10～7:20
・起床	6:20 (6:30)
・点呼	6:30 (6:40)
・清掃	6:40～7:15 (6:50～7:25)
・朝食	7:20～7:40 (7:30～7:50)
・登校	8:10 (8:25)
・夕食	18:20～18:50
・入浴、自由時間	18:50～20:20
・学習時間	20:30～21:30
・点呼	21:50
・消灯	22:15

IV. 経年変化にみるアンケート調査結果

ここでは、設問の順にそって、分析結果をみていく。表3は、設問「Q1. 入寮前から育成寮に入りたいと思っていましたか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。

表3 入寮前から育成寮に入りたいと思っていましたか

Q1	とても	思っていた	普通	あまり	まったく	合計
1年生(人)	7	25	37	17	19	105
割合(%)	6.7	23.8	35.2	16.2	18.1	100
3年生(人)	5	14	34	35	24	112
割合(%)	4.5	12.5	30.4	31.3	21.4	100
卒業生(人)	0	1	6	20	2	29
割合(%)	0.0	3.4	20.7	69.0	6.9	100



1年生は、育成寮に入りたいと思っていた生徒、思っていなかった生徒、「普通」を選んだ生徒に、ほぼ偏りが無い。3年生は、入りたいと思っていなかった生徒が52.7%と半数を越えている。参考までに、卒業生は75.9%が入りたいと思っていなかったと回答している。

表4は、設問「Q2. 育成寮での指導は厳しいと思いますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。1年生と3年生はともに、指導を厳しいと感じている生徒が7割を越えている。さらに、3年生の男女別比較において、 χ^2 検定 ($p < 0.05$) で女子の数値が有意に高いことがわかった¹⁹。すなわち、3年生では、男子に比べて女子の方が、育成寮での指導が厳しいと感じているといえる。

設問「Q3. どのような特別指導を受けたことがありますか」の自由記述回答に関しては、1年生では44件の有

効回答があり、そのうち、居眠りやマンガなどの「学習時間不良」と「窓の施錠忘れ」に関する記述がともに6件と、比較的多くみられた。「ペットボトル3本以上保持」、「空き缶の捨て忘れ」などのゴミ処理に関するものや「寝坊」などの回答もみられた。3年生では62件の有効回答があり、マンガやゲームなどの「学習時間不良」に関する記述が17件と、数多くみられた。「洗濯物放置」、「ゴミの捨て忘れ」、「門限遅刻」などの記述も複数みられた。なお、参考までに、卒業生は14件の有効回答があり、「たばこ」が4件、ドライヤーなどの電気製品や成人誌などの「不要物持ち込み」が5件であった。染髪やパーマなどの「頭髪服装指導」に関する記述も複数みられた。

表5は、設問「Q4. なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。

表4 育成寮での指導は厳しいと思いますか

Q2	とても	そう思う	普通	あまり	まったく	合計
1年生(人)	30	45	23	4	3	105
割合(%)	28.6	42.9	21.9	3.8	2.9	100
3年生(人)	30	56	19	6	1	112
割合(%)	26.8	50.0	17.0	5.4	0.9	100
卒業生(人)	2	10	12	5	0	29
割合(%)	6.9	34.5	41.4	17.2	0.0	100

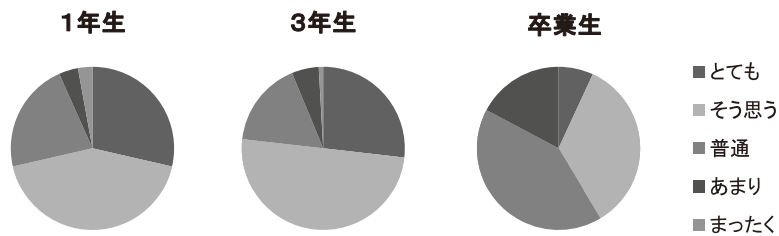
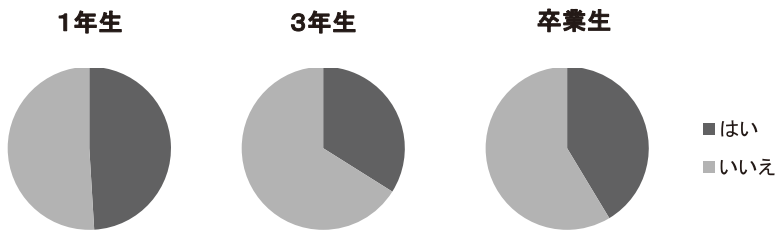


表5 なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか

Q4	はい	いいえ	合計
1年生(人)	51	53	104
割合(%)	49.0	51.0	100
3年生(人)	38	74	112
割合(%)	33.9	66.1	100
卒業生(人)	12	17	29
割合(%)	41.4	58.6	100



¹⁹ 育成寮での指導が厳しいと感じている生徒は、「とてもそう思う」と「そう思う」の回答数を合わせて、男子70.0%(70人中49人)、女子90.2%(41人中37人)であった。

「はい」と回答した割合は、1年生では49.0%、3年生では33.9%、卒業生では41.4%であった。すなわち、厳しい指導を行っている理由を理解している割合は、1年生では半分に満たず、3年生においては3割程度にとどまっている。

さらに、1年生の男女別比較において、 χ^2 検定(p<0.05)で女子の数値が有意に高いことがわかった²⁰。また、3年生の学科別比較において、酪農科学科の数値が有意に高いこともわかった²¹。すなわち、1年生と3年生のともに厳しい指導を行っている理由を理解している割合が低い中で、1年生では男子に比べて女子の方が、3年生では農業科学科や食品科学科に比べて酪農科学科の生徒の方が、比較的、指導の厳しさの理由を理解しているといえる。

また、理由を知っていると回答した人による、厳しい指導を行っている理由についての自由記述をみると、1年生では49件の有効回答があり、そのうち、「農業経営者としての責任感や規則正しい生活を学ぶため」といった農業経営者をキーワードとする記述が10件、「将来、社会に出てからしっかりやっていけるようにするため」などの将来の社会生活を視野においた回答が16件みら

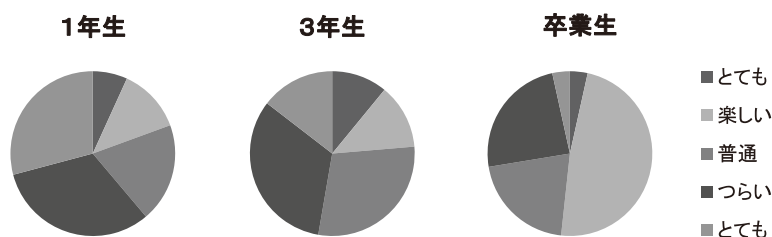
れた。「集団行動」、「ルール・マナー」といった記述も複数みられた。3年生では38件の有効回答があり、そのうち、「将来のため」などの将来の社会生活を視野においた回答が10件、「農業経営者を育てるため」といった農業経営者をキーワードとする記述が9件、「集団や団体に生活するため」といった記述が4件みられた。「規律・規則を守るため」といった記述も複数みられた。なお、参考までに卒業生は11件の有効回答のうち、「団体生活での規律を身に付けるため」といった記述が4件、「不良生徒が多かったから」などの記述もみられた。Q3の記述内容と同様に、現在とは異なる当時の様子が垣間見られる。

表6は、設問「Q5. 入寮して間もないころは、育成寮での生活をどのように感じていましたか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。先のQ2でみたように7割以上の生徒が育成寮の指導が厳しいと感じていることとの関係もあつてか、入寮して間もないころは、1年生では61.2%、3年生では47.3%の生徒が、つらいと感じている。なお、参考までに、卒業生でつらいと感じていた人は27.6%にとどまっている。

設問「Q6. 育成寮での生活の中で、楽しかったことは

表6 入寮して間もないころは、育成寮での生活をどのように感じていましたか

Q5	とても	楽しい	普通	つらい	とても	合計
1年生(人)	7	13	20	33	30	103
割合(%)	6.8	12.6	19.4	32.0	29.1	100
3年生(人)	12	14	32	36	16	110
割合(%)	10.9	12.7	29.1	32.7	14.5	100
卒業生(人)	1	14	6	7	1	29
割合(%)	3.4	48.3	20.7	24.1	3.4	100



²⁰ 厳しい指導を行っている理由を知っていると回答した生徒は、男子 39.4%(66人中26人)、女子 64.9%(37人中24人)であった。

²¹ 厳しい指導を行っている理由を知っていると回答した生徒は、農業科学科 16.7%(36人中6人)、酪農科学科 51.3%(39人中20人)、食品科学科 30.6%(36人中11人)であった。

何ですか」の自由記述回答に関しては、1年生では「友達と話した・遊んだこと」などの友達との交流に関する記述が40件、「外食会」や「誕生日会」や「寿司パーティー」などの育成寮での行事に関する記述が37件と、数多くみられた。3年生でも同様に、友達との交流に関する記述(42件)と育成寮での行事に関する記述(50件)が数多くみられた。「先生と話ができること」との記述もみられた。参考までに、卒業生でも友達との交流に関する記述(16件)や育成寮での行事に関する記述(4件)が多くみられた。ここから、寮生活の中で、友達との交流や寮での行事が楽しかったと感じている人が多いことがわかる。

次に、設問「Q7. 育成寮での生活の中で、つらかったことは何ですか」の自由記述回答は、1年生では、「携帯の回収」が21件、「お風呂の時間の短さ」が15件、「学習時間」が13件と、数多くみられた。3年生でも同様に、「携帯の回収」(24件)と「学習時間」(20件)と「お風呂の時間の短さ」(11件)に関する記述が数多くみられた。ここから、1年生と3年生に共通して、寮生活では、「携帯電話の回収」と「お風呂の時間の短さ」と「学習時間」に関して、つらいと感じる傾向があることがわかる。参考までに、卒業生では「朝の起床」や「早朝の実習」といった記述が11件と、数多くみられた。「先輩からの呼び出し」との記述もあった。

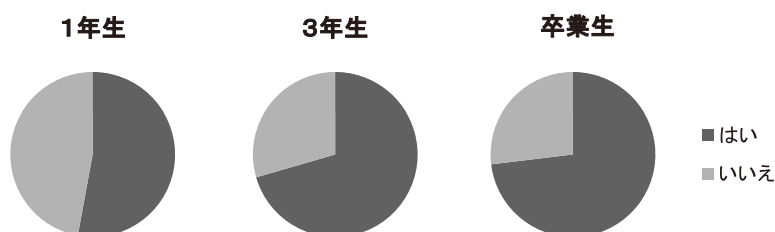
表7は、設問「Q8. 育成寮にいたおかげで、学校生活がよくなった(役立った)ことはありますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。「はい」と答えた割合は、1年生では52.9%、3年生は70.9%であり、参考ながら卒業生では73.1%であった。 χ^2 検定(p<0.05)で検証したところ、学年があがる、ないし時間が経過するにつれて、寮生活のおかげで学校生活がよくなったと回答する割合が、有意に高まっていることがわかった。さらに、3年生の男女別比較において、女子の数値が有意に高いこともわかった²²。

すなわち、3年生全体で寮生活のおかげで学校生活がよくなったと感じている生徒の割合が7割以上と有意に高く、なかでも女子の方がよくなったと感じている割合が高いといえる。先の設問「Q2. 育成寮での指導は厳しいと思いますか」との関連でいえば、3年生では男子に比べて女子の方が、寮生活の指導を厳しいと感じつつも、その指導が学校生活に役立っていると感じている傾向があることがわかる。

ちなみに、寮生活のおかげで学校生活がよくなったと回答した人による、よくなった内容に関する自由記述内容をみると、1年生では55件の有効回答があり、そのうち、「友達がすぐできた」などの友人関係に関するものが9件、「早寝早起きをすることにより元気に生活できた」や「規則正しい生活ができた」などの生活リズム

表7 育成寮にいたおかげで、学校生活がよくなった(役立った)ことはありますか

Q8	はい	いいえ	合計
1年生(人)	55	49	104
割合(%)	52.9	47.1	100
3年生(人)	79	33	112
割合(%)	70.5	29.5	100
卒業生(人)	19	7	26
割合(%)	73.1	26.9	100



²²寮生活のおかげで学校生活がよくなったと回答した生徒は、男子63.4%(71人中45人)、女子85.0%(40人中34人)であった。

ムに関する記述が5件、「遅刻をしない」といった通学の便宜に関するものが3件みられた。3年生では79件の有効回答があり、そのうち、「規則正しい生活の大切さがわかった」や「規則正しい生活を退寮してからでもできるようになった」や「生活リズムが良くなった」などの生活リズムに関する記述が11件、「時間が守れるようになった」との記述が10件、「礼儀が身についた」との記述が4件など、生活の規律に関する記述が数多くみられた。なお、参考までに、卒業生でも有効回答19件のうち、「他のクラスの人とも仲良くなれた」といった、友人関係に関する記述が6件みられたほか、「規則正しい生活ができた」、「時間の大切さ」、「協調性」などの記述もみられた。

表8は、設問「Q9. 育成寮に入ったことは将来的に役に立つと思いますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。役に立つと回答した1年生は61.0%、3年生は79.6%である。 χ^2 検定 ($p<0.05$) で、1年生と比べて3年生は、寮生活が将来に役立つと思う生徒の割合が有意に高いことがわかった。

さらに、設問「Q4. なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか」とのクロス集計を行ったところ、Q4で「はい」と回答した生徒のうち、Q9で将来的に役に立つと回答した生徒は、1年生では82.4%(42人)、3年生では89.5%(34人)であった。ここには高い関連性があることがわかる。

ちなみに、寮生活が将来に役立つと回答した人による、役立つ内容に関する自由記述内容をみると、1年生

では43件の有効回答があり、そのうち、「集団行動や団体行動などを通して学んだ協調性が役に立つ」といった集団行動や協調性をキーワードとする記述が9件、「社会に出て役に立つ礼儀やルール」などの礼儀やルール・マナーに関する記述が7件みられた。3年生でも68件の有効回答のうち、同様に、「集団生活の大切さや協調性」や「仕事をしたときに社員と協力し助け合いながら仕事ができるようになると思う」といった集団行動や協調性をキーワードとする記述が27件、「ルールなどを守ることの大切さを学べたこと」といった礼儀やルール・マナーに関する記述が5件みられた。先のQ8の自由記述の回答でもみられた「時間を守る」や「規則正しい生活」(生活リズム)といった記述も複数あった。なお、参考までに、卒業生では14件の有効回答のうち、「人間関係の形成」といった記述が8件と、数多くみられた。「子育てにも参考になっている」との記述もあった。

表9は、設問「Q10. 育成寮に入寮してよかったと思いますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。入寮してよかったと回答した1年生は66.4%、3年生は80.0%である。Q1の入寮前およびQ5の入寮直後の回答結果と比べると、1年生と3年生のいずれの数値も高いことがわかる。ちなみに、入寮することへの期待・不安や入寮直後の楽しさ・つらさと、寮生活の満足度には明確な因果関係はみられなかった。

また、 χ^2 検定 ($p<0.05$) で検証したところ、1年生に比べて3年生は、入寮してよかったと思う生徒の割合が有意に高いことがわかった。

表8 育成寮に入ったことは将来的に役に立つと思いますか

Q9	はい	いいえ	どちらでも	合計
1年生(人)	64	0	41	105
割合(%)	61.0	0.0	39.0	100
3年生(人)	90	1	22	113
割合(%)	79.6	0.9	19.5	100
卒業生(人)	17	0	10	27
割合(%)	63.0	0.0	37.0	100

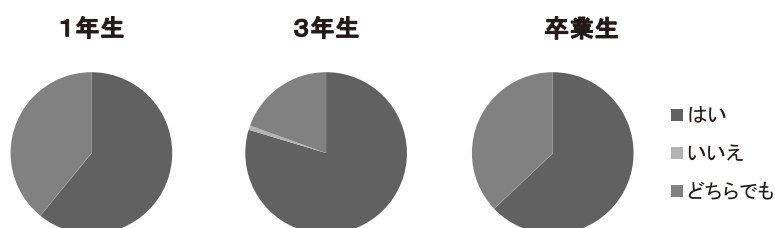
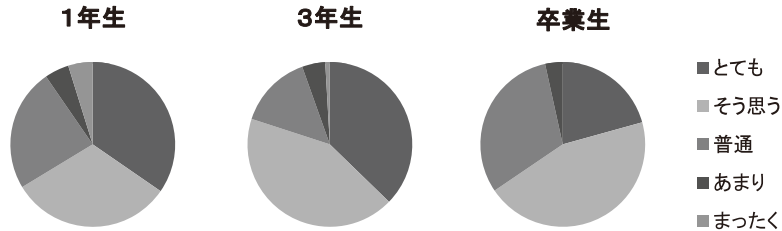


表9 育成寮に入寮してよかったと思いますか

Q10	とても	そう思う	普通	あまり	まったく	合計
1年生(人)	36	33	25	5	5	104
割合(%)	34.6	31.7	24.0	4.8	4.8	100
3年生(人)	41	47	16	5	1	110
割合(%)	37.3	42.7	14.5	4.5	0.9	100
卒業生(人)	6	13	9	1	0	29
割合(%)	20.7	44.8	31.0	3.4	0.0	100



加えて、1年生の男女別比較において、女子の数値が有意に高いこともわかった²³。すなわち、1年生では、男子に比べて女子の方が、入寮してよかったと感じているといえる。先の設問「Q4. なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか」との関連でいえば、1年生では女子の方が男子に比べて、寮の厳しい指導の意味（理由）を理解しており、寮生活の満足度が高い傾向にあることがわかる。

さらに、設問「Q4. なぜ厳しい指導を行っているのか知っていますか」とのクロス集計を行ったところ、Q4で「はい」と回答した生徒のうち、Q10で入寮してよかったと回答した生徒は、1年生では78.0%(39人)、3年生では91.7%(33人)であった。ここには高い関連性がある。

表10は、設問「Q11. 2年生以降も同じ制度で育成寮

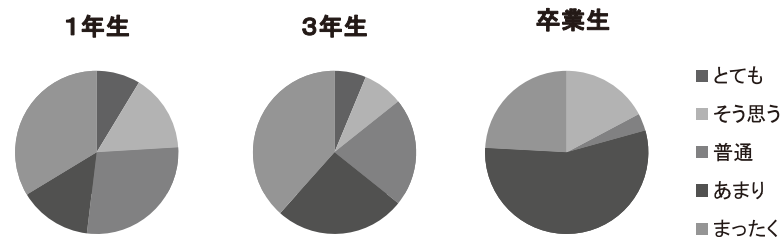
にいらることができるとしたら、入寮しますか」の1年生・3年生・卒業生の比較である。2年生以降も育成寮に入寮したいと思うと回答した1年生は24.0%、3年生は14.3%、卒業生は17.2%であった。

先のQ9およびQ10の結果との関連でいえば、1年生や卒業生は、寮生活が将来的に役に立つ、あるいは入寮してよかったと感じている生徒が6割強、3年生にいたっては8割の生徒がそう感じているけれども、育成寮の指導の厳しさからか、2年生以降も入寮したいと思う生徒は、すべての対象に共通して、かなり少ないことがわかる。

次に、設問「Q12. 直してほしい点はありますか」の自由記述回答に関しては、1年生では66件の有効回答があり、そのうち、先の設問「Q7. 育成寮での生活の中で、

表10 2年生以降も同じ制度で育成寮にいらることができるとしたら、入寮しますか

Q11	とても	そう思う	普通	あまり	まったく	合計
1年生(人)	9	16	29	15	35	104
割合(%)	8.7	15.4	27.9	14.4	33.7	100
3年生(人)	7	9	24	29	43	112
割合(%)	6.3	8.0	21.4	25.9	38.4	100
卒業生(人)	0	5	1	16	7	29
割合(%)	0.0	17.2	3.4	55.2	24.1	100



²³「とてもそう思う」と回答した生徒は、男子23.1%（65人中15人）、女子55.3%（38人中21人）であり、「そう思う」と回答した生徒は、男子32.3%（65人中21人）、女子28.9%（38人中11人）であった。

「つらかったことは何ですか」の回答に多くみられた「お風呂の時間」に関する記述が19件、「携帯電話の回収」に関する記述が9件と、ここでも多数みられた。シャワー(7件)や洗濯機(6件)の修理・増設希望など設備関係の修繕に関する記述も多くみられた。寮制度の改善につながるとみられる回答は1件あり、「学習時間中に勉強で分からないことがあったら、[同室の]相方だけでは、教えてもらえるような制度をつくってほしい。」との記述であった。3年生の有効回答(51件)でも、1年生同様、「お風呂の時間」に関する記述が9件、「携帯電話の回収」に関する記述が9件と、多くみられた。ちなみに、Q7の回答で「お風呂の時間」と「携帯電話の回収」とともに多くみられた「学習時間」に関する記述は、1年生と3年生のいずれの回答も3件のみであった。寮制度の改善につながるとみられる3年生の回答に関しては、「先生方で規則を統一してほしい」や「先生によって特別指導の基準が異なる」といった、教師間での指導の統一の必要性を指摘する記述が7件みられた。

表11は、設問「Q13. あなたが育成寮での生活を通し

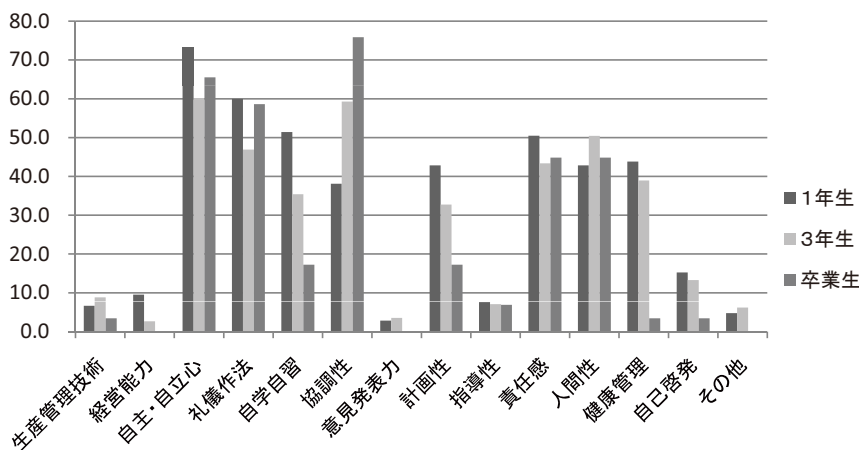
て学んだことは何ですか(複数選択可)」の1年生・3年生・卒業生の比較である。1年生では、「自主・自立心」を選択した割合が73.3%と最も高く、「礼儀作法」(60.0%)、「自学自習」(51.4%)、「責任感」(50.5%)、「健康管理」(43.8%)、「計画性」(42.9%)、「人間性」(42.9%)が順に続く。3年生では、「自主・自立心」(60.2%)と「協調性」(59.3%)が最も高く、「人間性」(50.4%)、「礼儀作法」(46.9%)、「責任感」(43.4%)が順に続く。なお、参考までに卒業生では、「協調性」を選択した割合が78.6%と最も高く、「自主・自立心」(67.9%)、「礼儀作法」(60.7%)、「責任感」(46.4%)、「人間性」(46.4%)が順に続く。

すなわち、1年生・3年生・卒業生のすべての対象に共通して、「自主・自立心」、「礼儀作法」、「責任感」、「人間性」を学んだと感じている割合が高い。また、1年生、3年生、卒業生へと時間が経過しない学年があがるにつれて、「協調性」を学んだと答える割合が高まっている。逆に、「経営能力」、「自学自習」、「健康管理」、「自己啓発」を学んだと感じている割合は、時間の経過とともに下がっている。卒業生を参考扱いとし、1年生と3年生

表11 あなたが育成寮での生活を通して学んだことは何ですか

Q13	生産管理技術	経営能力	自主・自立心	礼儀作法	自学自習	協調性	意見発表力	計画性
1年生(人)	7	10	77	63	54	40	3	45
割合(%)	6.7	9.5	73.3	60.0	51.4	38.1	2.9	42.9
3年生(人)	10	3	68	53	40	67	4	37
割合(%)	8.8	2.7	60.2	46.9	35.4	59.3	3.5	32.7
卒業生(人)	1	0	19	17	5	22	0	5
割合(%)	3.4	0.0	65.5	58.6	17.2	75.9	0.0	17.2

Q13	指導性	責任感	人間性	健康管理	自己啓発	その他	全体
1年生(人)	8	53	45	46	16	5	105
割合(%)	7.6	50.5	42.9	43.8	15.2	4.8	
3年生(人)	8	49	57	44	15	7	113
割合(%)	7.1	43.4	50.4	38.9	13.3	6.2	
卒業生(人)	2	13	13	1	1	0	29
割合(%)	6.9	44.8	44.8	3.4	3.4	0.0	



の選択割合を χ^2 検定 ($p<0.05$) で検証したところ、3年生の「協調性」を選択する割合が有意に高いことがわかった。

さらに、実家別比較と将来別比較において、3年生では、実家が農家の生徒および将来的に農業経営者を目指している生徒の方が多くの項目を選択しており、ほとんどの項目でそれ以外の生徒の選択割合を上回っている²⁴。ただし、 χ^2 検定 ($p<0.05$) で有意差を検証したところ、実家別比較、将来別比較の両方とも有意差はないことがわかった。このことから、こうした差異は、今回のアンケート対象者に限られる、一般化には至らない程度の差であり、実家が農家である生徒やそうでない生徒、また、将来的に農業経営者を目指している生徒やそうでない生徒に関わらず、育成寮は各々にとって教育的意味があることがわかった。

V. 結論

本研究では、以下の三点を結論とする。

第一に、1年生から3年生へと時間が経過することで、寮生活の教育的意味への生徒の自覚が強まることが明らかになった。1年生と比べて3年生は、①寮生活が将来に役立つと思う生徒、②入寮して良かったと思う生徒、③寮生活のおかげで学校生活がよくなったと思う生徒の割合が有意に増えている。そこでの生徒の自由記述回答に目を向けるならば、協調性をはじめ、生活リズム、礼儀やルール、人間関係などの形成・体得への実感が自覚の根拠として存在した。就職活動や進学準備を行う時期に、3年間の学校生活全体を振り返ることを通して、寮生活の教育的意味への自覚を強めていると考えられる。

第二に、農業経営者育成寮という名称ではあるが、実家が農家である生徒や農業経営者を目指す生徒だけでなく、それ以外の生徒にも寮生活がもたらす教育的意味が

あることが判明した。今回の調査対象に限っていえば、3年生では実家が農家の生徒および将来的に農業経営者を目指している生徒の方が事項全般にやや高く、寮の教育的意味を感じている傾向にある。ただし、 χ^2 検定 ($p<0.05$) では有意差は認められなかったことから、実家が農家であるか否かの違いや農業経営者を目指しているか否かの違いには、一般化できるほどの差はない。「自主・自立心」、「礼儀作法」、「責任感」、「人間性」など、各々の全人的な人間形成にとって、寮生活が教育的意味をもっているといえる。

第三に、生徒が寮での厳しい指導の意味を理解することと、寮生活がもたらす教育効果には、高い関連性があることが明らかになった。育成寮で厳しい指導を行っている理由を知っていると回答した生徒で、①入寮してよかった、②寮生活が将来に役立つ、と回答した生徒は非常に多い。現在も入寮時の説明で、育成寮での厳しい指導の理由を話しているとのことだが、厳しい指導の理由を理解している生徒は、1年生では半数以下、3年生では3割程度である。1964年「自営者養成農業高等学校」寄宿舎設置当初の中教審答申および文部省の意図に孕まれていた科学的根拠をともしない精神主義的教育の色彩を払拭する上でも、生徒の自治的共同生活の場としての育成寮において、教師が生徒に指導の意味を伝え、それを生徒たちに納得的に理解させることで、さらに高い教育効果を上げられると考える。

謝 辞

本研究の実施にあたり、育成寮の柴田政二舎監長および、米田敏也校長をはじめとする帯広農業高校の多くの先生方にご協力いただいた。また、卒業生への調査依頼に関し、本学非常勤講師で元帯広農業高校校長の水戸部洋二氏にも大変お世話になった。記して謝意を表したい。

²⁴寮生活で学んだことに関する実家別比較において、実家が農家でない学生の選択割合の方が高い項目は「生産管理技術」のみである。将来別比較において、実家が農家でない学生の選択割合の方が高い項目は「生産管理技術」、「協調性」、「計画性」である。